

みんなとつながる！市議会活動レポ

広島大学附属三原小学校6年生の社会科研究授業に参加しました

7月3日(金)に、広報広聴委員会広聴部会の10名と正田議長が広島大学附属三原小学校6年生(59名)の「当事者として政治を見つめる」と題した社会科の研究授業に参加しました。

この研究授業では、児童の皆さんが事前に作成した、架空の市民からの要望である「高齢者の交通支援」や「防災対策」など8つの施策に対し、公平性・効果・緊急性など自分なりの基準で配分した「500万円の予算案」について、児童3～4名と議員1名で優先順位やその理由などを話し合うグループワークを行いました。施策のメリットやデメリットを含め、さまざまな視点からの意見交換を通じて、活発な議論を行うことができ、大いに盛り上がり、大成功だったと感じています。

最後に議長からは、「予算案の配分に正解はなく、限られた予算の中で何を優先するかを決めることが議会の役割であること」、「議員は市民の代表として要望や意見を聞き、市に提案して予算配分に反映させる仕事をしていること」などを説明し、議会や議員に対する理解を深めることができたのではないかと思います。

今回の交流を通じて、児童の皆さんに「政治は身近なものである」ということを学んでもらえたと感じています。また、市議会としても「市議会とは何か」を知っていただくための良い機会となりました。

(萩 由美子)



半どん夜市で「シール投票」を実施しました

7月11日(土)、広報広聴委員会広聴部会の6名が、市民の皆様のご意見を伺う広聴活動の一環として、帝人通りで開催された半どん夜市で「シール投票」を実施しました。

6つの政策テーマから関心のある3つを選んでシールを貼っていただき、世代ごとの傾向を把握するとともに、選んだ理由や日頃のお考えについても伺いました。

当日は、若者から年配の方まで幅広い世代の方にご参加いただきました。議会から市民の皆様が集まる場へ出向くことで、普段接点が少ない方からも直接声を聴くことができました。

対話を通じて数字に表れない思いを知る大切さを実感しました。

いただいたご意見は集計・分析して今後の議会活動に生かし、その結果をお伝えしていくことが重要と考えています。本市議会では、今後も皆様に身近で参加しやすい広聴活動の充実に努めていきます。

(石井 克昭)

